

二ひきの蛙

新美南吉

青空文庫

緑かえるの蛙と黄色かえるの蛙が、はたけのまんなかでばったりゆきあいました。

「やあ、きみは黄色だね。きたない色だ。」

と緑かえるの蛙がいました。

「きみは緑だね。きみはじぶんを美しいと思っているのかね。」

と黄色かえるの蛙がいました。

こんなふうに話しあっていると、よいことは起おこりません。二ひきの蛙かえるはどうとうけんかをはじめました。

緑かえるの蛙は黄色かえるの蛙の上にとびかかっていきました。この蛙かえるはとびかかるのが得意とくいでありました。

黄色かえるの蛙はあとあしで砂すなをけとばしましたので、あいてはたびたび目玉めだまから砂すなをはらわねばなりませんでした。

するとそのとき、寒い風がふいてきました。

二ひきの蛙かえるは、もうすぐ冬のやってくることをおもいだしました。蛙かえるたちは土の中にもぐって寒い冬をこさねばならないのです。

「春になったら、このけんかの勝負をつける。」

といって、緑の蛙は土にもぐりました。

「いまいったことをわすれるな。」

といって、黄色の蛙ももぐりこみました。

寒い冬がやってきました。蛙たちのもぐっている土の上に、びゅうびゅうと北風がふいたり、霜柱が立ったりしました。

そしてそれから、春がめぐつてきました。

土の中にねむっていた蛙たちは、せなかの上の土があたたかくなってきたのでわかりました。

さいしよに、緑の蛙が目をさしました。土の上に出てみました。まだほかの蛙は出ていません。

「おいおい、おきたまえ。もう春だぞ。」

と土の中にむかつてよびました。

すると、黄色の蛙が、

「やれやれ、春になったか。」

と行って、土から出てきました。

「去年きょねんのけんか、わすれたか。」

と緑の蛙かえるがいました。

「待て待て。からだの土をあらいいおとしてからにしようぜ。」

と黄色の蛙かえるがいました。

二ひきの蛙かえるは、からだから泥どろつち土をおとすために、池いけのほうにいきました。

池いけには新しくわきでて、ラムネのようにすがすがしい水がいつぱいにたたえられてありました。そのなかへ蛙かえるたちは、とぶんとぶんとどびこみました。

からだをあらうつてから緑の蛙かえるが目めをばちくりさせて、

「やあ、きみの黄色は美しい。」

といました。

「そういえば、きみの緑だつてすばらしいよ。」

と黄色の蛙かえるがいました。

そこで二ひきの蛙かえるは、

「もうけんかはよそう。」

といいあいました。

よくねむったあとでは、人間でも蛙^{かえる}でも、きげんがよくなるものであります。

青空文庫情報

底本：「ごんぎつね 新美南吉童話作品集」てのり文庫、大日本図書

1988（昭和63）年7月8日第1刷発行

底本の親本：「校定 新美南吉全集」大日本図書

入力：めいこ

校正：鈴木厚司、もりみつじゅんじ

2003年9月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

二ひきの蛙

新美南吉

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>